

利事業宮川地区、他に県内各地の県営は場整備・団体営は場整備など農用地開発事業に関するもののほか、東北電力浪江原子力発電所・日本道路公団、日本国有鉄道、日本電々公社、真野ダム建設・福島空港計画・相馬地域総合開発に係る関係機関等が主なものである。

### ③ 開発に伴う発掘調査

県教育委員会では開発事業に伴う発掘調査を(財)福島県文化センターに委託し、母畑地区内唐松遺跡他7遺跡(11,800㎡)会津農水宮川地区内下堀際遺跡(1,300㎡)真野ダム内松ヶ平A遺跡他2遺跡(2,000㎡)の発掘調査を終了した。合計15,100㎡である。

また、単一市町村内の開発事業に伴う発掘調査は、それぞれの教育委員会が主体者となって実施しているが、現状では調査を行う専門職員を採用している市町村は少なく、調査に際して必要と認める場合は、県教育委員会又は(財)福島県文化センターの専門職員を派遣指導を行っている。専門職員の派遣指導を行った遺跡調査の主なものは、次の通りである。

#### ○県教育委員会より職員派遣

庚申森遺跡(川俣町)・伊達竈跡(伊達町)・天王壇古墳(本宮町)・馬場中路遺跡他(郡山市)・三春ダム関連遺跡(三春町)・善福遺跡(長沼町)・雨屋遺跡(会津若松市)・向羽黒山城趾(本郷町)・上林遺跡(山都町)・上ノ原遺跡(会津高田町)・谷地小屋要害遺跡(新地町)・永田古墳群(鹿島町)

#### ○(財)福島県文化センターより職員派遣

根古屋遺跡他(霊山町)・雨屋遺跡(会津若松市)・上林遺跡他(山都町)・権現堂遺跡他5(新鶴村)三十刈遺跡他5(会津高田町)・赤沼遺跡(原町市)

### (3) 史跡指定調査

#### ① 目的

歴史上重要な遺跡の史跡指定を積極的に進めるために、発掘調査を行い基本資料を整備する。

#### ② 調査対象

関和久上町遺跡(白河郡泉崎村大字関和久所在  
西白河郡泉崎村大字関和久所在)

#### ③ 調査指導

伊東信雄(東北大学名誉教授)  
坪井清足(奈良国立文化財研究所長)

#### ④ 調査期間

昭和57年10月12日～12月1日

#### ⑤ 調査結果(第1次調査)

遺跡の東・北辺を区切ると考えられた土塁・大溝跡は、中～近世のものであり、本遺跡より出土する古代の土器・瓦類との直接の関連は認められない。

古代の遺構としては竪穴住居跡7基、工房跡1基が検出されており、竪穴住居跡には瓦が多く用いられる。灰釉陶器の浄瓶が出土する。工房を伴う、など通例の古代集落跡とは異なる点が認められた。

#### ⑥ 今後の対応

五カ年計画で昭和61年まで発掘調査を行い、遺跡の性格・範囲を明らかにする。

### (4) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

#### ① 第10回福島県埋蔵文化財発掘技術講習会

・8月3日～8月13日 主催 福島県教育委員会  
後援 会津高田町教育委員会

・会場 会津高田町中央公民館

・実習 会津高田町上ノ原遺跡他

・参加人員 19名(市町村文化財担当者・教職員・他)  
(特別参加)会津・南会津教育事務所社教主事  
管内派遣社教主事

#### ② 奈良国立文化財研究所主催埋蔵文化財発掘技術者研修

・土器 陶磁器調査課程 57年6月12日～7月3日  
橋本博幸(財)福島県文化センター遺跡調査課

・一般課程 57年7月22日～8月28日

塚目充也 須賀川市教育委員会

山野憲雄 磐梯町教育委員会

・埋蔵文化財基礎課程 57年9月6日～9月10日

鈴木庄寿 いわき市教育委員会

・遺跡測量課程 57年9月20日～10月9日

石本弘(財)福島県文化センター遺跡調査課

・保存科学課程 57年11月17日～11月30日

櫻村友延(財)いわき市教育文化事業団

・墳墓調査課程 58年1月21日～2月1日

安田稔(財)福島県文化センター遺跡調査課

・遺跡保存整備課程 58年2月21日～3月5日

菅家博昭 昭和村文化財保護審議委員

### (5) 埋蔵文化財保護の普及活動

#### ① 発掘調査報告書等の刊行

ア 東北新幹線関連遺跡調査報告書VI

イ 東北新幹線関連遺跡報告書VI付編

ウ 関和久上町遺跡I(史跡指定調査概報)

エ 国営会津農業水利事業関連遺跡報告 I

オ 矢吹地区分布調査報告 III

カ 阿武隈中部第二地区分布調査報告 III

キ 母畑地区分布調査報告 VII

ク 母畑地区発掘調査報告 11

ケ 母畑地区発掘調査報告 12

コ 母畑地区発掘調査報告 13

サ 真野ダム関連遺跡発掘調査報告 IV

### (6) 県内の発掘調査の状況

本年度も試掘調査の件数が圧倒的に多く、全発掘件数の8割以上を占めており、原因は農用地開発に伴って試掘調査が必要となったものである。調査の結果は遺跡保存協議の資料として活用され、協議の結果大部分の遺跡が現状のまま、あるいは工法変更によって保存されている。この結果が、発掘調査面積の増加を抑え、発掘調査費の拡大を抑制するのに役立っている。

### (6) 埋蔵文化財保護検討会議

#### ① 検討会議開催の目的

埋蔵文化財保護について当面する諸問題と、今後の保護体制のあり方について検討を行う。

#### ② 検討会議の構成

菊池貴晴 福島県文化財保護審議会委員 福島大学教授  
梅宮茂